

「星原小学校のヤートセイ伝承活動の取組」

1 学校名

中種子町立星原小学校

2 学年・人数

全学年（計17人）

3 日時・場所

（1）練習の日時・場所

2018（平成30）年9月～10月 総合的な学習の時間及び夜間（本校体育館）

（2）発表の日時・場所

2018（平成30）年9月23日（日） 小学校・校区合同運動会（本校運動場）

2018（平成30）年11月3日（土） 中種子町民文化祭（種子島こり～な）

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能，伝統行事について

（1）名称

ヤートセイ

（2）由来

ヤートセイはいつごろ，どこから伝わったかは不明だが，歌詞からみて江戸初期から中期の内地のはやり歌謡が定着し，踊り継がれてきたようである。種子島における郷土芸能の踊りは，大踊り・中踊り・小踊り・座踊りなどに分類されるが「ヤートセイ」は中踊りに入る。歌の囃子が「ヨイヨイ」「ヤートセイ」の二通りあり，この囃子から踊りの名もヤートセイとなったと言われている。

（3）構成等

内側で男性陣が入れ子太鼓，締太鼓，鐘を打ち鳴らして踊り，外側で女性陣が扇子をもって踊る。楽曲は「出端（では）」「本踊り（お久米口説き）」「引端（ひきは）」の3種類で構成される。

5 保存会や地域との連携の具体

星原校区では，坂元，牧川，竹之川集落にそれぞれのヤートセイが伝承されていたが，高齢・過疎化により伝承が難しくなったいた。1984（昭和59）年，伝承者の一人である厚地氏と，当時本校教諭であった田中氏が尽力し，唄を採譜してピアノ伴奏を付け，囃子方の保護者の協力も得て，音源を作成した。

伝承の主体は育成会が担っており，中種子町文化少年団とも連携しながら，子ども会育成会を中心に伝承されている。本校は極小規模校であるため，育成会長はPTA会長を兼務しており，実際の活動はPTA活動と融合した状態で行っている。職員も踊り手として参加するなど協働して伝承に寄与している。

現在は運動会で披露することが毎年恒例となっているほか，年によって町の文化祭や生涯学習大会，農林漁業祭のイベントで披露している。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

総合的な学習の時間に、ふるさとを学ぶ活動の一つとして、このヤートセーを位置付け、由来等について調べる活動、上級生から下級生に伝える活動を行っており、踊りの実演では教職員も参加している。家庭教育学級では、ヤートセーに向けた着付け教室を行い、親が我が子の着付けをしてあげられるようにしている。

また、伝承の主体は育成会になっていることを尊重し、学校として練習時間や場所を確保するための連絡調整をしたり、踊りに必要な道具の保管・整理したりするとともに、今後も伝承していけるように資料の整理・保管と、音源をデータ化するなどの手伝いをしている。

7 取組の様子



【上級生から下級生へ伝える活動】



【家庭教育学級での着付け教室】



【運動会での披露】



【町文化祭での披露】

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

- ・ヤートセーについて調べて、星原のいいところが分かってよかった。(児童)
- ・太鼓が重くて腕が痛くなったけど、おもしろかった。(児童)
- ・ヤートセーは華やかで見応えがある。今後も伝承して行ってほしい。(教員)
- ・ヤートセーに家族で参加し、とてもよい記念になった。(保護者)